

●『教育ソリューションフェア2007』で 学級・学年通信セミナー 「学級経営が変わる！プリントコミュニケーション」を開催

ワークショップと実践発表

約60名の参加者で満席の会場



教育現場支援の研修イベント「教育ソリューションフェア2007」（主催・日本教育新聞社、後援・文部科学省ほか、協賛・理想教育財団ほか）が7月26・27日の両日、東京・秋葉原UDXで開催されました。講演や分科会など多彩な催しが行われる中、26日の分科会では「学級・学年通信セミナー」「学級経営が変わる！プリントコミュニケーション」が開かれました。



「育て！プリントコミュニケーション」の入賞作品を見る参加者

セミナーは、日本教育新聞社編集局報道部長矢吹正徳氏が「先生自らコミュニケーション能力を鍛え、実践事例から学んでいただきたい」旨の挨拶をし、始まりました。

初めに宇田川光雄先生（社団法人全国子ども会連合会常務理事・目白大学、聖徳大学講師）による『プリントコミュニケーションワークショップ』が行われました。

「花火型プレスト」と名づけられたこの方法は、コミュニケーション能力を鍛えるための手法。2人一組で紙に「プリントコミュニケーション」から連想する言葉を書き込み、

最後にプリントコミュニケーションの定義や効果、期待されるものを考えるという内容です。

この後、柵木弓先生（岡崎市立梅園小学校・第1回『育て！プリントコミュニケーション』



ワークショップの宇田川光雄先生

「育て！プリントコミュニケーション」コンクールで最優秀賞を受賞と、新井国彦先生（高崎市立中尾中学校・第2回『育て！プリントコミュニケーション』コンクールで優良賞を受賞）による実践発表が行われました。

関心の高さと取り組みの真摯さ

柵木先生は『学級経営に生かす学級通信』と題して、自身制作の学級だより「信」とパワーポイントを使いながら、学級経営の場で学級だよりが果たす役割を具体的に提示。「手ごたえのある学級通信、手ごたえのある学級づくりをしていきたい」と結びました。

新井先生も学級通信『凜』や、現



実践発表する柵木弓先生と新井国彦先生

在、初の試みとして発行している国語科通信『言葉は命』を制作する際の工夫や様々な配慮について、エピソードを交えながら発表。「発行した通信は生徒には成長の跡、私にはその時の生徒の表情や会話まで浮かぶ手立てになる」と通信発行の重要性を振り返りました。

最後に矢吹部長が挨拶に立ち、新聞制作に携わる自身の経験を元に、レイアウトや写真の効用に配慮した、メリハリのある通信づくりを、と訴えました。

約2時間のセミナーでしたが、参加者は熱心にメモを取るなど、プリントコミュニケーションへの関心の高さとその取り組みの真摯さが伝わる研修となりました。

*理想教育財団では、今後各地で通信づくりセミナーを開催する予定です。（お問い合わせは、03-3575-4313へ）